

第1号議案 令和6年度事業報告（主事業の概要）

令和6年度は、定例役員会、月例山行についてはほぼ計画通り実施した。公募型登山については4回計画し3回実施した。うち2回は、講師を招いての現地講習会として実施した。本部主催行事である総会及び晩餐会並びにオンライン会議での行事にも積極的に参加した。全国支部懇談会及び東北・北海道地区集会に参加し全国の会員等との親睦・情報交換を図るとともに、熊野古道集中山行等県外での行事にも参加した。支部親睦事業であるビールパーティ、支部晩餐会についても実施した。会報発行事業については、ほぼ計画通りに発行した。更に、全国自然保護集会への参加、宮城・山形支部交流会への参加など、支部活動の充実に努めた。また、事業の拡充を目的に、槇有恒顕彰特別委員会、デジタル化W・Gを立ち上げた。

1 公益事業

(1) 親子登山教室事業

登山に関心のある親子を対象に、第13回(5月5日)、第14回(10月19日)に計画し親子登山教室を実施した。なお、第13回は中止となった。

(2) 登山教室事業

登山技術の向上を目的に「登山者の為のセルフレスキュー講座」として、第12回(7月13日)、13回(9月7日)に実施した。参加者は延べ55名と好評だった。

(3) 泉ヶ岳登山支援事業

仙台市内の小学校が実施する5年生を対象とした「泉ヶ岳登山」事業を実施するに際し、要請に応じて教育委員会、学校側と連携を図り、16校に登山支援ボランティアを務めた。

(4) 定例役員会

原則、月1回開催し、支部事業の円滑な推進を図るとともに、支部が抱える会員減少、高齢化等の課題・問題などについて話し合いを重ね、解決の方向性を探った。参加者は9名～10名/1回であった。

(5) 自然保護活動事業

全国自然保護集会への参加し、情報の収集と交流を図った。また、宮城県から委嘱されている「山岳環境指導員」としての職務を通じ、自然環境の保護に寄与した。

(6) 槇有恒顕彰事業

仙台市名誉市民である槇有恒という登山家が、世界の山岳会に多大な足跡を残されたことに思いを起し、その功績を称える事業を想起・実施する事を目的に「槇有恒顕彰

特別委員会」を設置し検討を始めた。

(7) その他の公益事業

自然保護全国集会、熊野古道集中山行、日本山岳医学会学術集会、日本野外教育学会、高頭祭（アジア山岳連盟 30 周年事業）に参加し知見の集積等に務めた。

2 共益事業

(1) 月例山行事業

月例山行事業は、ほぼ計画通り実施することができた。久しぶりに北アルプス登山を実施した。参加者の延べ数は 80 人であった。

(2) 宮城支部報発行事業

宮城支部の情報誌として「宮城山岳通信」（第 33 号～第 35 号）、「宮城山岳」第 28 号」を発行し、情報発信に努めた。

(3) 親睦事業

親睦事業として実施してビールパーティ及び支部晚餐会 & オークションを開催し支部会員等の親睦融和を図った。

(4) 全国山岳古道調査事業

隔月で開催される本部主催の ZOOM 会議に参加し、情報の共有に務めた。

(5) 山形・宮城支部交流会

山形支部担当で山形県遊佐町（遊楽里）において開催された第 8 回となる山形・宮城支部交流会に参加し、交流を深めた。

(6) デジタル化推進事業

支部の情報発信・情報共有・アーカイブ力の強化を目指し、メディア委員会にデジタル化 W・G を設置し検討を始めた。